

町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜  
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



▲年間貸出しランキングコーナーにぜひお越しください

「年間貸出しランキング」コーナー話題になった本や文学賞などの受賞作品、映画やドラマの原作本、著名人の本など、今年度貸し出しの多かった本はどんな本だったのか、「年間貸し出しランキング」コーナーを作って紹介しています。「ほとんど読んだ」「これは読んでいない」「こんな本があったのか」など、楽しくチェックしていただけます。

と幸いです。お気に入りの本は、何度でもどうぞ。読み返すたびに物語や知識が深くなります。ぜひ、ご利用ください。

0歳児からのおはなし会について  
図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

●日時

3月14日(木) 午前10時30分～

●会場

おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター図書室内)

## 新着図書紹介

### 小説



**風に立つ**  
袖月 裕子 著/中央公論  
家庭裁判所に送られてきた少年を預かる補導委託の引受を突然申し出た、南部鉄器職人の父・孝雄。父の行動に戸惑う息子・悟。少年と工房で共に働くうち、悟の心にも少しずつ変化が…。家族の心の機微を丁寧に描く一冊。



**彷徨う者たち**  
中山 七里 著/NHK出版  
社会派ヒューマンミステリーのシリーズ完結編。映画化された第一作「護られなかった者たちへ」第二作「境界線」に続く第三作は、復興が進む被災地に根ざす人々の揺れ動く心情と人間模様を描く、読み応えのあるミステリー。



**八月の御所グラウンド**  
万城目 学 著/文藝春秋  
第170回直木賞受賞作品。大学生・朽木は、借金のカタに、早朝の御所G(グラウンド)で謎の草野球大会、たまひで杯に参加する羽目になり…。表題作など、京都を舞台にした人生の愛しくほろ苦い味わいを綴る全2篇を収録。

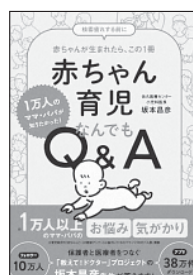
### 一般書



**すぐできる自力整体**  
矢上 真理恵 作/ダイヤモンド社  
今すぐラクになりたい、スッキリしたい人のための自力整体の方法を紹介。たった3分でラクになるレッスン、ゆがみをじっくり整える20分のロングレッスンなど「自力整体」のポイントをわかりやすく解説。役立つ一冊です。



**遠距離介護の幸せなカタチ**  
柴田 理恵 作/祥伝社  
介護に正解はないが、情報を知ることが最善の介護は選べる。実家での遠距離介護の始め方、在宅介護・在宅医療のポイント、介護費用・使える介護保険など、離職せず、今の暮らしも守る介護がやさしく分かる入門書です。



**赤ちゃん育児なんでもQ&A**  
坂本 昌彦 著/赤ちゃんとママ社  
けいれんが起きたときの対処は？どれくらい吐いたら病院に行くべき？「月刊赤ちゃん」との連載に寄せられた赤ちゃん育児の悩みや気がかりに、小児科医がエビデンスを示しながら、最新の知見で正確な医療情報を届けます。

今回は、「小山田家文書（おやまだけもんじょ）」の中の宝暦四年（1754）の事について、少し述べてみたいと思います。

この時代はちょうど江戸時代中期、ここでも人々の暮らしも平穏だったことでしょう。そんな中、小山田平四郎さんが八丁村の庄屋に任命された際に、年頭に何をするのか、事細かに14項目にわたって明記されています。年頭ですので、この一年自身がすべき事が書かれています。今の時代とちょっと異なると私が感じたのは、「氏神社」が上位にきていることです。

当時は、現在のような役所（役場）もないと思いますし、庄屋として人の往来も念頭に入れてあり、引っ越しや転居についても役目だったのではと思います。それに内外の事にも気を廻らすことも多かったようです。筑後（現在の福岡県南部）の国のお家騒動まで気にかける様子が事細かに書かれています。

それにしても当時の産業とてあまりない時代、農業

は基幹産業のはずなのに、庄屋としての役割は田畑の管理や種や糶の管理が任せられるくらいで、この件に関しては別の部署があったのではないかと推察されます。

ほんの約300年前の書付けですが、庄屋の仕事の合間に書かれていたとは驚きです。現在ではパソコンでの文書作成が主流になりつつありますが、果たしてこれからのようなものが資料として活用されることになるのでしょうか？



▲江戸時代中期宝暦四年（1754年）の記載が見える小山田家文書（常用日記）

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447（内線324）

## 人権 ～心豊かに暮らすために～

### 甲佐町就学前人権教育部会第2回研修会を開催

令和6年1月20日（土）、若草保育園で「就学前人権教育部会第2回研修会」が開催され、町内の保育園、小学校職員など41名が参加しました。

研修会では、「山鹿市子ども総合相談窓口」保育相談員の村上直美氏と、山鹿東保育園の中島美智子氏が、「しなやかなからだ ころろをそだて〜つるまきたいそう〜」という演題で講演。「つるまきたいそう」とは、人体の自然に即した科学として体教育をとらえ直す視点から、野口三千三先生が考案された「野口体操」をもとに、つるまきさちこ先生が工夫された体操です。強く大きな体格を作るのは目的ではなく、精神と肉体を分けて扱わず「体と言葉をひとつに」とからだ丸ごとの変革を目指したものです。

#### ■なぜ「つるまきたいそう」なのか

それはあらゆる差別をなくそう、差別をしない子どもを育てようという思いがあるからです。差別は人のつながりを断ち切ってしまう。子どもが目と目を合わせ、手をつなぎあい、肩や背中を寄せ合い、相手の息を感じながら遊ぶことで、心もからだも解きほ

ぐし、強く子どもたちをつなぎ合わせたいという願いがあります。これが「つるまきたいそう」の良さであり根っこなのです。

参加者からは、「子どもたちの心と体をほぐしていきたい」、「子どもたちの笑顔が見れるよう学校でも活用していきたい」などの感想が聞かれました。「つるまきたいそう」を通して、「しなやかなからだ ころろ」を持った子どもたちを育てていくことの大切さを改めて感じた研修となりました。

#### ●お問い合わせ先

町社会教育課  
☎ 096・234・2447  
(内線327)



▲「つるまきたいそう」を行う参加者たち